

全ての慰めの神（2コリント 1:3-11）

2020年5月3日（日）

ジョーイ・ゾリーナ牧師

今日は第2コリントより、新しいシリーズを始めます。この書物は、パウロが開拓したコリントの教会への4通目の手紙です。パウロはこの手紙を彼の3回目の宣教旅行の間、紀元後55~57年頃にマセドニアで書きました。ここであなたに質問です。あなたは苦しい時、どこに、または何に慰めを求めますか？今日の3つのポイントは、1. 苦難の中の神の目的 2. 苦しみの中のキリストの慰め 3. 復活のための死の宣告 です。

1. 苦悩の中の神の目的

3~4節

「3 わたしたちの主イエス・キリストの父である神、慈愛に満ちた父、慰めを豊かにくださる神がほめたたえられますように。 4 神は、あらゆる苦難に際してわたしたちを慰めてくださるので、わたしたちも神からいただくこの慰めによって、あらゆる苦難の中にある人々を慰めることができます。」

パウロは3節で神をほめたたえています。「わたしたちの主イエス・キリストの父である神、慈愛に満ちた父、慰めを豊かにくださる神がほめたたえられますように。」パウロが神をほめたたえている理由は、コリントの人々が、パウロの厳しい手紙にとってもポジティブに応答したからです。(2:3-4) そして、パウロのこの神への賛美は神との個人的な深い経験から来たものです。しかし、パウロはとても困難な状況の中でさえ、神をほめたたえることを過去に学びました。ただ1人、唯一、賛美に相応しい神をたたえました。（英語で、“THE” Godと、いう表現をしています。これは、“唯一の”という意味です。）いいですか、あなたの神への賛美は、あなたが苦しみの中にいる時に、一番純粹で、心から捧げているのではないかと思います。パウロは、全ての慰めである神さまを慕っています。

はい、先ほど質問しました。「あなたは苦しい時、どこに慰めを求めますか？」私たちが苦しい時、苦い思いを持ってしまうことがあります。苦しみを忘れるため

に、映画を見たり、ゲームをしたり、過度に食べ過ぎたりする誘惑があります。この時代では、インターネットの普及により、簡単に、苦しみを麻痺させてしまうことができます。いいですか、私たちは、全ての慰めである神さまではなく、すぐに得られる慰めという偶像に走りがちになりますよね。私たちはよく、全ての慰めである神ではなく、他の慰めを求めてしまいます。しかし、パウロはここで、苦しみの中にも何か神の理由があり、しかもその神は全ての慰め主であることを理解しています。パウロは、神を「慈愛に満ちた父」と褒め称えています。これはとても重要です！パウロは、神を「わたしたちの主イエス・キリストの父である神、慈愛に満ちた**お父さん**」とたたえました。そして4節で、「あらゆる苦難に際してわたしたちを慰めてくださる神」と言っています。4章や11章で、パウロは福音のためにとても苦しい経験をしました。それでも、全ての苦難の中で（苦難の中でもあるものだけ、ではなく、全ての苦難）、慰め主である神を体験したのです。想像できますか？あなたにどんな苦難が来ようとも、神の優しい慈愛と慰めがあるのです。さて、パウロの苦難の中での神の目的はなんだったのでしょうか。4節でパウロはこう言っています。「わたしたちも神からいただくこの慰めによって、あらゆる**苦難の中にある人々を慰めることができるために**。」私自身も、人生と宣教活動の中で、とてつもない苦難の中、神さまの深い慰めを経験しました。そして、どうすれば苦しんでいる人を慰めることができるか、今も学んでいます。もっと人の話をよく聞けるようにどうすれば良いか、学んでいます。はい、あなたが他の人にしてあげられるまず初めの慰めは、話をよく聞いてあげることです。そして話を聞く前にその人の苦しみを解釈して理解しているように思わないことです。私は、その人の苦しみを共に負い合い、その人に寄り添う、ということを学んでいます。あなたはどうか？あなたは今苦しみの中にいますか？あなたはここでパウロが言っている、全ての慰め主である神を知っていますか？今この時期に、誰を慰めることができるでしょうか？後に、7章でパウロはテトスが慰めてくれた喜びについて語っています。

だから、パウロは、4節で「あらゆる苦難に際してわたしたちを慰めてくださる神」をたたえているのです。さて、パウロは、ここでどんな慰めのことを言っているのでしょうか？もう少し掘り下げてみましょう。「**慰め**」という言葉に注目してください。慰めの語源は、慰めるもの、熱心な勧め、励まし、などです。また、「寄り添う」という意味もあります。この言葉は、1章の中に10回出てきます。イザヤ書の40節から66節で、救世主が来る時代の慰めについて語られています。しかし、実

際にイエスが来た時に、ルカ2:25で、シメオンのような「イスラエルの慰めを待っている」人々がいました。

だから、パウロが慈愛に満ちた父である神をたたえることができたのは、キリストが、神からの究極的な慰めになったからです。キリストを通して、神さまは、私たちの優しい憐れみを持ったお父さんであり、慰めてくださる方になってくださったのです。エペソ1:3でも「父である神が、ほめたたえられますように」とあります。そこでは、パウロは、神がキリストにあって、私たちを「選んで」くださったこと、そして、あらゆる「霊的な祝福で満たして」くださったこと、をたたえ、感謝しました。それは、どんな苦しみも私たちから奪うことができないことがあることを指します。それは、私たちが**神の子どもであるというアイデンティティー**です。神さまは、キリストを通して私たちに「慈愛に満ちた父」となってくれたのです。そしてパウロは、これは、単なる慰めではなく、パウロが人々に与えるものと同じ福音の慰めだと言います。私たちの全ての苦難に対する神の目的は、「わたしたちも神からいただくこの慰めによって、あらゆる苦難の中にある人々を慰めるため」です。言い換えると、あなたの苦しみは全く無駄ではありません。神さまは、神の耳、神の声として、あなたを、苦しんでいる世界のために用いたいのです。神さまは、あなたの代わりに苦しむためにひとり子イエスを遣わすことによって、慈愛に満ちた父として示してくださったのです。では、次のポイントを見ていきましょう。

2. 苦しみの中のキリストの慰め

5~7 節

「5 キリストの苦しみが満ちあふれてわたしたちにも及んでいるのと同じように、わたしたちの受ける慰めもキリストによって満ちあふれているからです。6 わたしたちが悩み苦しむとき、それはあなたがたの慰めと救いになります。また、わたしたちが慰められるとき、それはあなたがたの慰めになり、あなたがたがわたしたちの苦しみと同じ苦しみに耐えることができるのです。7 あなたがたについてわたしたちが抱いている希望は揺るぎません。なぜなら、あなたがたが苦しみを共にしてくれているように、慰めをも共にしていると、わたしたちは知っているからです。」

5節でパウロが言っていることを見てください。「キリストの苦しみが満ちあふれてわたしたちにも及んでいる」十字架でのイエスの苦しみはパウロの苦しみを支えるものでした。さて、この世には、私たちが人間だから耐えている苦しみ、もしくは単に、癒しが必要な壊れた世界にいるから耐えている苦しみ、があります。私たちの体は病気になりやすいものです。しかし5~6節でパウロは「苦しみ」を表すいくつかのギリシャ語をの言葉を使いました。この言葉は、キリストの苦しみを表す言葉としても使われています。(1ペテロ1:11; 5:1) イエスは、自分は受ける必要が全くなかったのに、私たちが本来は受ける価値のなかった永遠の慰めを受けられるように、最大の苦しみを受けられました。十字架の上で苦しむことによって、私たちの最大の罪の結果を取ってくださいました。イエスは、苦しみ、私たちの永遠の苦しみを取り去ってくれたのです。イエスだけが、私たちの罪に対しての罰を払い、苦しみを通ってくださいました。しかし、私たちが召されている、キリストのような苦しみがあります。それは、「キリストを真似た苦しみ」です。パウロは、神のために仕えたい人々に起こる、ある苦しみを考えていました。しかし、パウロは「私たちにキリストの苦難があふれているように、慰めもまたキリストによってあふれている。」と言いました。

パウロの、苦しみの中であふれている慰めは、キリストの苦しみがあふれていることから来ていると言いました。要は、パウロはここで、キリストによって満ち溢れた人生を生きていたのです。しかし、満ち溢れたクリスチャン生活とは、物質的な快適さ、健康、繁栄のことを言っているのではありません。事実、パウロはこの手紙を、彼が本当の使徒ではなかった経験の苦しみの思いから書きました。コリントの人々は、推薦状が足りないとパウロを非難しました。(3章)しかし、キリストの苦しみを豊かに分かち合うことは、使徒的宣教の真の印でした。はい、質問です。あなたはキリストの従うために苦しんでいますか？もしそうなら、あなたの慰めは満ち溢れるでしょう。キリストにある苦しみを喜んで分かち合うことによって、神さまの慰めが満ち溢れていくでしょう。もしくは、あなたは罪と不従順の中で生きているから苦しんでいますか？それなら、キリストの元へ行きましょう。ここにあなたへの恵みがあります。あなたがキリストへの不従順で苦しんでいるなら、慰めがあります。キリストのために一番苦しんでいるクリスチャンたちは、神の慰めを惜しまずに話す人たちです。キリストの苦しみをあなたが分かち合えるようになった時、キリストによって慰められた時、そして他の人たちを慰めることができるようになる時に、です。それが、4節の前半でパウロが言っていることですよ？私たちの苦難の中に、神の素晴らしい目的があるのです。6節でパウロはこう言います。「わたしたちが悩み苦しむとき、それはあなたがたの慰めと救いになります。」

ここでの「慰め」という言葉の意味を覚えていますか？それは、「同情」ではありません。もちろん、同情も慰めの一つではありますが。先ほど見たように、元々の慰めの意味は、「その人に寄り添って助ける」という意味です。それは、イエスが聖霊に使った言葉と同じです。「慰め主」ヨハネ14-16節にあります。それは、私たちが慰め用としている誰かの「聖霊」になることはできないということです。神さまの聖霊のみが、私たちには絶対できない方法で、他の人たちを慰めることができるのです。だから、ここでパウロは単に同情したり、単にやる気を起こさせるようなスピーチをしていないのです。人々が落ち込んでいたり、絶望の中にいる時、そういう話をするのは、癌の患者さんに絆創膏をあげるだけのようなものです。単にやる気を起こさせるような話は、感情と、意思レベルにしか届きません。もっと長く続くような、心に力を与えることはできないのです。

気づいてください。パウロは、「あまり無理しないでいいよ。気楽にいこうよ。」とは言いません。そうではなくて、パウロはもっと深く、「もし私たちが慰められているなら、それはあなたの慰めです。あなたが忍耐を持って耐えた経験と、同じ苦しみを私たちも味わいます。」と言います。あなたへの私たちの希望は、揺るがないものです。なぜなら、あなたが苦しみを分かち合ったように、私たちに慰めも分かち合ってくれることを知っているからです。コリントの人々は、キリストのような犠牲的な働きと、パウロが経験したような慰めを分かち合うことに使命を与えられました。あなたは、自分の快適さをキリストに従う以上に愛していますか？

パウロは、「わたしたちが悩み苦しむとき、それはあなたがたの慰めと救いになります。」と言いました。(6節) クリスマスは、犠牲的な愛を通してイエスの福音を伝える使命を与えられているのです。そして、パウロは言います。「それはあなたがたの慰めになり、あなたがたがわたしたちの苦しみと同じ苦しみに耐えることができるのです。」と言います。キリストのような忍耐とは、神さまが、私たちの現段階での苦しみの中で、育ててほしい「実」です。イエスが十字架で苦しまれた時、自分には全く値しなかった罪のために完全な忍耐を持って耐えてくださいました。そして、パウロは、それを、本当は分かち合う価値もない私たちなのに、イエスの苦しみを通して、分かち合うことができる特権だと考えています。いいですか、世界は、私たち、クリスマスが苦しみの中で辛抱強く耐えているのを見るときに、十字架の上のキリストの忍耐を見るのです。

では、最後のポイントです。

3.復活のための死の宣告

8-11節

「8 兄弟たち、アジア州でわたしたちが被った苦難について、ぜひ**知っていてほしい**。わたしたちは**耐えられないほど**ひどく圧迫されて、生きる望みさえ失ってしまいました。9 わたしたちとしては死の宣告を受けた思いでした。それで、自分を頼りにすることなく、死者を復活させてくださる神を頼りにするようになりました。10 神は、これほど大きな死の危険からわたしたちを救ってくださったし、また救ってくださることでしょう。これからも救ってくださるにちがいないと、わたしたちは神に希望をかけています。11 あなたがたも祈りで援助してください。**そうすれば**、多くの人のお陰でわたしたちに与えられた恵みについて、多くの人々がわたしたちのために感謝をささげてくれるようになるのです。」

8節でどれほどパウロが傷つきやすい状態で、必死になっているか気づいてください。「アジア州でわたしたちが被った苦難について、ぜひ**知っていてほしい**。」1コリント15:32にあるように、パウロはエフェソスでもたくさん苦しみに合いました。しかし、パウロはその苦しみや葛藤を隠そうとはしていません。なぜこれが私たちに関係あるのでしょうか？ 私たちの時代には、多くの人々が外見を重視することに疲れています。この文化は、常に私たちのベストな状態を見せなくてははいけないと思わせます。だから人々は、確実性を求めます。毎日、職場でプロ根性の顔を保たなければいけないことに疲れます。心が傷ついている時にも見せなくてはならないプロの笑顔は本当に疲れます。しかし、パウロはここで、宗教的な外見をつけてはいませんでした。キリストと出会ってから、パウロはパリサイ人の宗教的律法は捨てました。

もしクリスチャンが、恐れに葛藤したり、不安だったり、靈的に落ち込むことさえも、全くないふりをしていたら、世界には何も感銘を与えません。人々は答えを求めているのです。つまり、教会は、クリスチャンがまるで苦しいことなんて何もないかのようなふりをしなくていい、安全な場所になれるということです。教会は、弱い人々への病院です。完璧な聖人たちを飾る美術館ではありません。教会は、私たちが傷ついている時や苦しい時に、何事もないようなふりをしなくていい場所なのです。もしあなたがクリスチャンではないなら、聖書がどれほど正直で何も包み

隠さず記されていることが見えますか？聖書は出てくる登場人物の苦しみを全く隠していません。素晴らしい使徒、伝道者であったパウロは、実際のところ、イエスの復活の後でイエスと出会いました。そして彼はこう言います。「アジア州でわたしたちが被った苦難について、ぜひ**知っていてほしい**。」「わたしたちは**耐えられないほど**ひどく圧迫されて、生きる望みさえ失ってしまいました。」

あなたがクリスチャンなら、「神は耐えられない試練は与えない」という聖書箇所を聞いたことがありますか？実際のところ、パウロは「自分の力を**はるかに超えた**、とてつもない圧迫があった」と言っています。「圧迫」という言葉に注目してください。それは、とても重い重荷を負っているということです。つまり、神さまはあなたが、自分の力に頼るのではなく、神さまに頼るように、自分で取り扱うことができる限界を超えたものを与える、ということです。それが、パウロが9節で言っていることです。「わたしたちとしては死の宣告を受けた思いでした。それで、自分を頼りにすることなく、死者を復活させてくださる神を頼りにするようになりました。」どういう意味でしょう？それは、それは、パウロの苦しみが、まるで支配者や裁判官が死刑宣告をしたかのような、とても強烈なものだったということです。

あなたは今までに絶望を感じたことがありますか？パウロは、心に重荷を抱えることがどういうことか分かっていました。しかし、9節でこう言いました。「自分を頼りにすることなく。」言い換えると、**苦しみは、慰めよりもあなたをもっと良いクリスチャンにすることができる**、ということです。事実、あまり苦しみを体験していないクリスチャンは、深みのない、表面的で信仰の浅い人が多いです。苦しみは、あなたをとてつもなく賢く、へりくだった人にさせます。なぜなら、あなたが自分の弱さをよりはっきりと見ることを学び、神の力にしっかりと頼るようになるからです。いいですか、パウロはここで、コリントの人々に、自分の忍耐がどこから出てきたかを示しているのです。また、どこから弱さと苦しみの中で、真の力が出てきたかも示しています。パウロは言いました。「自分を頼りにすることなく、**死者を復活させてくださる神を頼りにするようになりました**。」もしあなたが、自分の力に頼り、神に頼らないなら、あなたはいつも傲慢になるでしょう。なぜ？私たちの自然な力（これも神さまからのギフトですが）が、私たちの霊的な弱さから盲目にさせるからです。だから、神さまの恵みの中では、トラブルや、試練や困難な状況は、自分を頼ることが崩されます。私たちが、もっと神さまの復活の力に頼るレベルを上げることができるようにこのような状況を用います。それが、救いの力です。神さまは、恵みによって私たちを救った、慈愛に満ちた父です。そして私

私たちは自分の力ではなく、神さまの慈愛に頼ってクリスチャン人生を生きます。みてください。あなたの弱さが、あなたの敵なのではありません。あなたが自分の力に頼っていることがあなたの敵なのです。あなたの弱さは、あなたをへりくだりへと導きます。あなたが自分の力に頼ることは、プライドを持ち続けることになります。あなたの弱さは神さまが、ご自身の力と恵みを注がれるための憐れみ、または水路のようなものです。パウロは、「死者を復活させてくださる神を頼りにするようになりました。」と言いました。「イエスを死から復活させた神は、私たちが死から救ってくださる、同じ神だ。」とも。10節に、「神は、これほど大きな死の危険からわたしたちを救ってくださったし、また救ってくださることでしょう。これからも救ってくださるにちがいないと、わたしたちは神に希望をかけています。」とあります。パウロはこう言います。「神は過去にアジアで私たちが救ってくださった誠実な方だ。だから、これからも助けてくださる。なぜなら神は死を復活させることができる方だからだ。イエスを死から復活させた同じ神が、聖霊を通して私たちが慰めてくださる。そして、イエスを復活させた同じ神が、私たちに揺るがない希望を与えてくださる。」

みてください。私たちの素晴らしい希望は、死の経験すら越えるものなのです。私たちの希望は、将来に対してこうなったらいいなあという願いのものではないのです。私たちの希望は、死を復活させることができる神の上にあるのです。死の後に命があります。死の後に復活があります。もし、私たちの希望が、死を復活させる神の上であり、死を越えるものなら、私たちの未来は安全です。あなたの未来は、この世界の単なる楽観的な考えよりはるかにポジティブなものです。キリスト教にある未来に不確かなものは何もありません。なぜなら、この世界の終わりの日に、イエスを復活させた同じ神が、私たちも復活させてくださるからです。(14節)

だから、私たちがキリストについていき、自己中心さを殺すなら、私たちは、キリストの苦しみを分かち合い、また、キリストの慰めも分かち合うことができます。私たちがキリストに従い、自分のプライドを殺す時、私たちは、キリストの苦しみと復活を分かち合うことができます。私たちが、他の人に対して犠牲的な奉仕をしてキリストに従う時、キリストの苦しみと復活の力をシェアしているのです。

最後に、パウロは11節でこう言います。「あなたがたも祈りで援助してください。**そうすれば**、多くの人のお陰でわたしたちに与えられた恵みについて、多くの人々がわたしたちのために感謝をささげてくれるようになるのです。」使徒パウロが、謙遜してあなたに祈りを求めているのです。そしてここで彼が言っているのはこういうことです。「あなたが、福音のメッセージの働きのために祈る時、たくさんの人々の祈りを通して私たちに与えられた祝福に、多くの人が神に感謝をします。」死から復活させることができる神に頼る鍵は、祈りです。そして教会で、たくさんの祈りが答えられる結果として、たくさんの感謝が神さまに捧げられるのです。